個が生きる生活科授業の評価

―― 第2学年「おもちゃ大会をひらこう」 ――

木 村 晋 二 郎

1．はじめに

(1) 個が生きる児童の姿

「具体的な体験や活動を通して，自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ，自立への基礎を養う。」

上記のように，生活科の教育目標が学習指導要領に示されている。この教育目標には，

ア　具体的な体験や活動を通すこと

イ　自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもつこと

ウ　自分自身や自分の生活について考えること

エ　生活上必要な習慣や技能を身に付けること

という四つの視点が示されており，これらの視点を押さえることにより，「自立への基礎を養う」という生活科の究極的な目標を達成するとしている。この学習指導要領の目標・内容を参考にしながら，本校での生活科のあり方を考え，「個が生きる」という研究テーマに照らし合わせて，次のような「個が生きる」姿を描いている。

> 一人一人の児童が，自分との関わりの中で身の回りの社会や自然をとらえ，働きかけ，集団の中で他の児童と関わりながら，自分自身を見つめ，生きる力をつかみとっていく。

そして，個が生きる生活科授業づくりにあたっては，個と集団をかかわらせていく中において，

① 一人一人の子どもの実態が認められている。

② 一人一人の思いや願いに基づくめあてや多様な活動が大切にされている。

③ 集団の中で，子どもが自分自身や他者のよさに気づくことができる。

という３つの条件を考え，援助・指導を行っていく。

(2) 生活科における授業の評価

生活科では，具体的な活動や体験そのもの…つまり一人一人の児童が，それぞれのめあてに向かってどのように気づき，行動しているかというその過程を重視している。そのような一人一人の児童の活動や体験をとらえ，援助・指導していくために，次のような評価の方法を考えている。

① ねらいに即した評価方法の活用

・行動観察による評価…児童の身体表出（態度や行動）の観察

・日常観察による評価…授業以外の学校生活，社会生活の様子のみとり

・自己評価による評価…自分自身の反省評価

② 「○○できたか」から「どのように○○するか」へ

生活科の評価を一定の枠の中での限定的なものでなく，仮定的なものを設定し，子どもの特色を把握していく。

③ 長期間にわたる継続的な評価

生活科では，「～することができるようにする（実践的な態度や行動そのもの）を重視してい

る。つまり，自ら学ぶ意欲や学習したことが，児童の日常生活にどのように生かされているかを評価する。

以上のような考えをもとに，第2学年の実践を報告する。

2．実践　第2学年「おもちゃ大会をひらこう」

(1)　単元について

おもちゃといえばどの子も強い興味関心を示すものである。身の回りにある日用品や廃材を活用して，自分たちなりのおもちゃを作るという本単元の内容は，子どもたちを強くひきつけ，どの子も意欲的に活動するであろう。一方，それらのおもちゃを使って大会を実施させていくが，一人一人が異なる活動をしていては大会は成り立たない。同じおもちゃ作りのメンバーが集まり，計画を立て，ルールを決め，遊び方を工夫していかなければならないこの活動は，友だちとかかわり合い・協力し合うという点においても意義があると思われる。

本学級の児童は，これまで図画工作科で空箱や牛乳パックなどを利用して，鉛筆立て・落し物箱・コップなど自分たちの生活の中で使うものを作っている。また，11月に全校で行われた東雲祭りでは，上級生が企画したゲームや催しものに参加してその楽しさを味わっている。そこで，これまでの経験を思い出させ，自分たちで製作・企画・活動させていきたい。しかし，一人一人が積極的に製作・活動できるようになってきている反面，グループでよりよいものを目指して思考し，活動するということに関しては，まだ十分とはいえない現状である。このような実態から，身の回りの日用品や廃材などを利用しておもちゃを製作させるとともに，友だちと協力して楽しいおもちゃ大会にするよう工夫させたい。そしてこれらの活動から，ものを作ることの楽しさやそれを使って遊ぶことの喜び，友だちと協力することの大切さをつかんでほしいと思っている。

(2)　学習のねらい

①　身の回りの日用品や廃材を使っておもちゃを作ることができる。

②　友だちと協力して楽しくおもちゃ大会を行うことができる。

(3)　活動内容と計画

第一次　おもちゃを作ろう　…　3時間

第二次　おもちゃであそぼう　…　2時間

第三次　おもちゃ大会をひらこう　…　2時間

(4)　活動の実際

○第一次　…　個の考えを出し合う場

1年生の時の「かぜとあそぼう」という単元で，かざぐるまを作って遊んだ。始めは，教えてもらった通りのかざぐるまで遊んでいたが，それだけでは物足りなくなり，それぞれが工夫し始めた。形を変えたり，色をつけたり，中にはふき流しのようなものを作ったり，巨大なかざぐるまを作った子もいた。一人一人が工夫する中で，教え合ったり，助け合ったりする姿も見られたが，個と集団がしっかりかかわり合うところまでは到っていなかった。そこで，本単元では個と集団を積極的にかかわらせるために，ただおもちゃを作って遊ぶだけでなく，大会をするということを意識させて活動に入った。

第一次の第1時では，どのような大会をひらきたいか意見を出させ，やりたい大会を選ばせて，大会ごとのグループをつくった。以下は大会別のグループである。

◎ひこうき大会

わりばしや紙を使ってひこうきを作り，遠くへ飛ばす。

◎パチンコ大会

木の箱や釘を使って作り，玉の入った得点を競う。

◎わなげ大会

わりばしやダンボール箱で的を作り，新聞紙の輪を投げて得点を競う。

◎楽き大会

あきかん・輪ゴム・フィルムケースなどを使って楽器を作り，音色を比べる。

◎トントコずもう大会

空き箱で作った土俵で，紙のおすもうさんを競わせる。

◎人形大会

きれ・紙・箱などを使って人形や飾りを作り，劇をする。

◎パチパチパチンコ大会

木切れやわりばし，輪ゴムを使ってパチンコを作り，的に玉を当てて得点を競う。

第一次の第2時・第3時では，これらのグループに分かれておもちゃ作りを行った。一人一人が自分の思いで作っていたが，同じグループ内で教え合ったり，意見をたたかわせたりする姿がみられた。

○第二次　…　個の考えを練り上げる場

第一次で作ったおもちゃで実際に遊んでみる場面である。遊んでいる中で，より楽しく遊ぶためにおもちゃを改良する子や，大会をすることを意識して賞状や賞品を作るグループの姿が見られた。

トントコずもう大会

（ひこうきグループ）

・より遠くへ飛ばすためにはねの形を変えたり，おもりをつけたりする。

（パチンコグループ）

・得点が入りすぎるため，釘の打ちかえをする。

（わなげグループ）

・輪が入ったときに鳴らす鈴を用意したり，得点別の賞状を作ったりする。

（楽きグループ）

・すぐに遊び終わってしまうので，新しい楽器を作るよう促した。

（トントコずもうグループ）

・相手の子が休みのため対戦できないので，もう一つ土俵を作る。

（人形グループ）

・大会をするには競うものがなさそうなので話を聞いてみたが，「だいじょうぶ」と言って，劇の練習を続ける。

（パチパチパチンコグループ）

・始め玉を紙で作っていたが，あまり飛ばなかったため小石に変更。色紙で賞品を作る。

パチパチパチンコ大会

○第三次　…　個と集団がかかわり合う場

①　授業の実際（第三次　第1時分）

本時は，それぞれのグループで自分が作ったおもちゃを使い，大会を開くという活動である。援助・指導にあたっては，子どもたち一人一人の発想や活動を大切にするとともに，大会を行っていく中で子どもたち

が互いに友だちのよさを認められるように配慮することを考えた。また，自分のグループや他のグループの活動についての思いや考えを出させることにより，友だちの工夫のすばらしさやグループでの活動の大切さにも気付かせていくよう心がけた。

学習過程

学　習　活　動	教　育　的　価　値	援助・指導上の留意点
1　どんな大会をするのかグループごとに発表する	・自分のグループの大会についてみんなに紹介することができる。	1　みんなに紹介させることにより大会への意識を盛り上げ，他の大会への興味を持たせる。
2　それぞれのグループで大会を開く。 作ったおもちゃで大会をひらこう。	・グループごとに分担・協力して，大会の準備をすることができる。 ・競い合ったり，教え合ったりしながら，楽しく活動することができる。	2　大会の進め方については子どもたちの発想を大切にし，グループごとに決めさせる。 ◎より楽しくなるようにどのような工夫をしているか。
3　他の大会への参加や見学の方法について考える ○ひこうき　○人ぎょう ○わなげ　○楽き ○トントコずもう ○パチンコ ○パチパチパチンコ	・お互いの大会に参加・見学できる方法を考えることができる。	3　自分たちのグループで大会を行いながら，他のグループの大会に参加・見学するための方法を考えさせる。子どもたちの発想を大切にするが，もし出なければ東雲祭りのことなどを思い出させる。
4　他のグループの大会へ参加したり，見学したりする。	・互いに教え合いながら，楽しく活動することができる。	4　どのように教え合い，いっしょに活動していくのか教師も参加しながら，子どもたちの活動をとらえ，助言していく。
5　自分のグループや他のグループの大会について思ったことを話し合う。	・友だちの工夫のすばらしさに気付くことができる。	5　他のグループの友だちのよさを見つけさせたり，自分たちのグループの活動を振り返らせることにより，よりよい大会をしようという意欲を持たせる。
6　後かたづけをする。	・グループで協力して後かたづけができる。	◎大会をよりよくするために，どのようなことに気付いたか。

②　結果と考察

第三次・第1時の学習は，大きく2つの場面に分けられる。前半は実際に大会を行う場面，後半は他のグループの人たちに紹介する場面である。どの子も楽しく活動していたが，やはり人形グループは，自分たちのイメージした大会と違っていたようである。しかし，他のグループの子が見にきてくれると，はりきって劇をし，なぞなぞを出していた。

評価については，今回は行動観察による評価…児童の身体表出（態度や行動）の観察を主に行った。ただ，その評価を行うときには，前述したように「○○できたか」ではなく，「どのように○

○したか」という見方で行った。（日常観察による評価…授業以外の学校生活，社会生活のみとりについては後述）

A児　得点がたくさんはいった子に賞状を渡し，拍手をする。

B児　自分の大会にたくさんの人を呼ぼうと声をかける。

C児　他のグループの子に分かりやすくルールの説明をする。

パチンコ大会

D児　遠くに飛ばそうとはねをつけたり，取ったりする。

E児　たくさんの人に来てもらうためにはどうすればいいか，友だちと相談する。

・・・

子どもたちの行動にも見られるように，たくさんの子が他のグループの友だちに自分たちの大会に参加してほしいと考えている。実際子どもたちに人気のある大会もあったが，来てくれる友だちが少なくて，がっかりしているグループもいくつかあった。

次の第三次の第2時では，これらの評価をもとに，全ての大会に参加する工夫を考えさせ，本単元を締めくくった。このように，評価はただ評価することだけにとどまらず，援助・指導の手だての1つとして考えていきたい。

3．おわりに

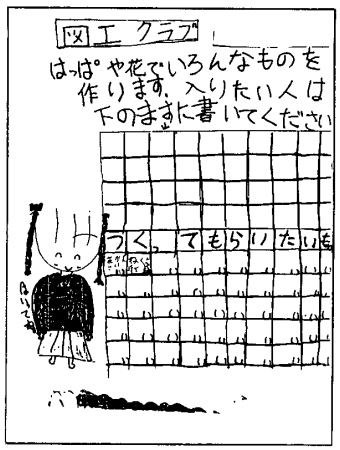
生活科では，実践的な態度や行動が重視されており，学習したことが児童の日常生活にどのように生かされているかを評価することも重要であると考えている。

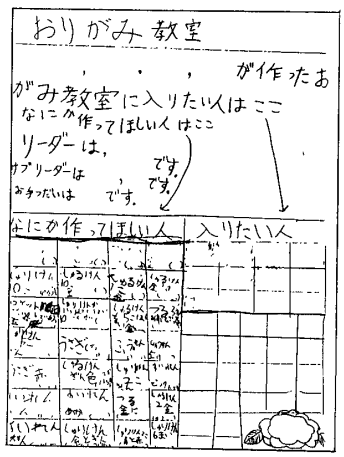
今回の「おもちゃ大会をひらこう」の学習の後，どのように学習したことが生かされているか観察を行い，次に2例を示した。

(1)　学級内の○○クラブ・○○教室の発足

ある日，2人の子が画用紙がほしいと言いにきた。訳を聞くと「工作クラブ」を自分たちで作るのだという。次の日の朝の会の時，2人はさっそくその画用紙で作ったポスターをもって，作ってほしいものを聞いたり，入会の勧誘をしたりしていた。その日の休憩時間には，2人のまわりは子どもたちでいっぱいになっていた。

何日かたつと，たくさんの子が画用紙をもらいにきて，クラスは○○クラブや○○教室でいっぱいになった。もちろん，下記のように運動系のものもあるが，生活科の学習を生かしたようなクラブや教室も見られる。





クラブ・教室の紹介ポスター

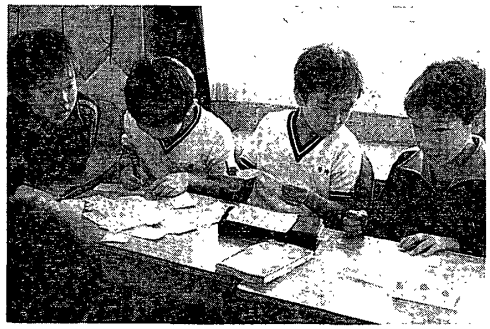
・図工クラブ
・ドッチボールクラブ
・けんきゅう教室
・なわとびクラブ
・生きものはかせクラブ
・おりがみ教室
・サッカークラブ

クラスにできたクラブや教室

(2) 学級活動の中で

お楽しみ会のプログラム
1．はじめのことば
2．歌
3．かたかなカルタ大会
4．大会のじゅんび
5．それぞれの大会
6．あとかたづけ
7．歌
8．おわりのことば

グループ別の大会
・くじびき大会
・カラオケ大会
・人形げき大会
・まとあて大会
・こわい話大会
・ジャンボたからくじ大会



たからくじを作ろう

学期の終わりに，学級活動でお楽しみ会を行った。これまでは，フルーツバスケットやカルタ大会のように，全員で一つのことに取り組むことが多かったが，今回は話し合い活動で，グループごとに大会を行うことになった。

- やりたい大会を紙に書いてはり，同じものをやりたい子がその紙に名前を書く。
- たくさんの人を呼ぶために，賞品をたくさん用意する。
- 他の大会を見に行くときには，大会を行う人と交代で見に行く。

おめでとう　賞品です

など，たくさんの工夫点が見られた。このような事例から，授業以外の学校生活や社会生活の観察による評価は，生活科において重要であると考える。また，評価の中で，今回行わなかった作品分析による評価や自己評価も，これからの授業において考えていきたい。